毛は後側角の前内方に位置し、同側縁長との比は約 0.7 である。中肋は内側を走り軽く内方に湾曲する。游泳片の縁毛、周縁突起は存在しない。中肋先端に 1 本の游泳片毛を有し、長さは中肋の約 $\frac{1}{5}$ 内外である。

[金澤大學醫學部]

鹿兒島に於ける「フィラリア」傳播蚊の種類

長 花 操

Nagahana, M.: Mosquito vectors of filariasis in Kagoshima

鹿兒島縣内 13 ケ所に於て主として「フィラリア」感染者が住つて居る家屋内で採集し

番 號	蚊 の 種 類	檢 査 數	幼 蟲 を 見 出 し た 蚊 數	幼蟲保有 蚊を見出 した調査 地の 數
1	<i>Culex pipiens pallens</i>	440	35 $\left(\begin{array}{l} \text{I, 27} \\ \text{II, 5} \\ \text{III, 2} \\ \text{感, 3} \end{array} \right)$	9
2	<i>Culex quinquefasciatus</i>	257	36 $\left(\begin{array}{l} \text{I, 29} \\ \text{II, 9} \\ \text{III, 2} \\ \text{感, 1} \end{array} \right)$	9
2'	上記 2 種の中間型	144	12 $\left(\begin{array}{l} \text{I, 10} \\ \text{II, 2} \\ \text{III, 1} \\ \text{感, 1} \end{array} \right)$	7
3	<i>Aedes togoi</i>	65	6 $\left(\begin{array}{l} \text{I, 4} \\ \text{II, 1} \\ \text{III, 0} \\ \text{感, 1} \end{array} \right)$	3
4	<i>Anopheles hyrcanus sinensis</i>	7	2 [I, 2]	2
5	<i>Culex whitmorei</i>	24	0	0
6	<i>Culex vishnui</i>	24	0	0
7	<i>Culex tritaeniorhynchus</i>	15	0	0
8	<i>Culex bitaeniorhynchus karatsuensis</i>	10	0	0
9	<i>Culex sinensis</i>	2	0	0
10	<i>Aedes japonicus</i>	3	0	0
11	<i>Aedes albopictus</i>	6	0	0
12	<i>Armigeres subalbatus</i>	102	0	0
合 計		1099	91 $\left(\begin{array}{l} \text{I, 72} \\ \text{II, 17} \\ \text{III, 5} \\ \text{感, 6} \end{array} \right)$	30

註 幼蟲を見出した蚊の欄中 [] を以て示した数字の中で I、II、III、感とあるのは夫々 I 期、II 期、III 期、感染幼蟲を認めたことを示しこの次にアラビア数字で記してある数は各期の幼蟲を見出した蚊の匹数を示す。

た（夜間並に晝間）蚊に就て「フィラリア」幼蟲の検索をした。その結果は検査した蚊の種類、匹数、フィラリア幼蟲を見出した蚊の匹数並に「フィラリア」幼蟲保有蚊を見出した調査地の箇所数は前頁の通りである。

前頁の表に示す様に感染仔蟲を體內に認め得た蚊の種類は *C. p. pallens*, *C. quinquefasciatus* 及び *A. togoi* の3種であるがⅠ期の幼蟲は *A. h. sin.* に於ても認め得た。

[米子醫科大學公衆衛生學教室]

1950 年の東京に於ける蚊の消長と 一 齊羽化について

北岡正見・緒方隆幸・三浦悌二

Kitaoka, M. Ogata, T. et Miura, T. : Seasonal occurrence
and the phenomenon of simultaneous emergence of the
mosquitoes of Tokyo, in 1950

1950 年の1ヶ年間、48年・49年同様上野動物園の厩、牛舎で日没後に吸蟲管による蚊の採集を行つた。採集蚊總数は5,247匹で、*C. trit.* 53.1%, *A. vexans* 32.2%, *C. pip. var. pallens* 7.0%, *A. togoi* 2.9%, *An. hyrcanus* 0.6% その他7種類の蚊が採集された。

C. trit. の山は7月26日に見られ昨年より約1週間早く現われた。又この山の外に凡そ5つの山が見られた。*C. pip. var. pallens* は1年を通じて採れ全期間を通じ6-7回の山が見られた。*A. vexans* は7月12日に最高の山が見られたが、その前後に6つの山が見られた。*An. hyrcanus* は7月19日に最高の山が見られた。

吸血率は *C. pip. var. pallens* 27.6%, *C. trit.* 24.5%, *A. vexans* 67.0%, *An. hyrcanus* 96.8% で之等の曲線も週期的な数回の山が見られた。雄率は *C. pip. var. pallens* が23.4% で他の種類は雄は採集されなかつた。

C. pip. var. pallens の産卵状態を豫研構内の水槽で観察したが凡そ15-30日の間隔で山が見られた。

越冬蚊の活動は3月末-4月始めに最も盛んであり、次いで4月16日頃都内各地で始めて *C. pip. var. pallens* の卵塊を認めた。それから5月上旬に第1回の一齊羽化の山に始まり、11月10日頃の第7回の一齊羽化迄7回の一齊羽化を認めた。

C. pip. var. pallens の一齊羽化間隔（發育期間）は気温、水温との間に一定の間隔があり、積算温度の法則が成立するものとすれば發育零點は -15°C 、積算温度は1055-1130度日となる。

C. trit., *A. vexans* についても採集数と吸血率の消長から見て *C. pip. var. pallens* と同様に一齊羽化現象があるものと思われる。

[豫防衛生研究所]